資料２

百年記念塔に関する安全面からの検討（途中経過）

○平成２９年に実施した専門コンサルタント業者による調査

・　ただちに、倒壊する危険性はないものの、塔内に立ち入りできるように原状復帰した場合においても、今後、部材の腐食等による不測の落下事故を完全に防ぐことは、物理的にも不可能に近いことから、その対策として、立入禁止エリアの設定（フェンスの設置）、落下事故防止用屋根付きの通路の設置が必要。

○耐震の専門家からのヒアリング結果

・　耐震性、耐風性の担保など安全性が第一である。錆片など飛散物もあることから、現状を維持しようとして周囲に立入禁止エリアをつくっても、上部の鉄板が落ちるようなことがあれば安全とはいえないのではないか。

○外板の素材メーカーによる調査結果（H30.6 実施）

・　外壁パネルの穴あき、波打ち、及び錆片の落下が確認される。これらは、主に雨水の塔内部への侵入と雨水が溜まりやすい構造に起因した腐食によるものと推定。これ以上の腐食進行を抑制するためには、雨水の浸入を抑制するための対策や排水の工夫等の補修対応が必要と考えられる。

■百年記念塔の危険箇所（別紙写真）

01 1-4F 床上鉄骨塗膜浮き、発錆.JPG

02 1F 土間モルタル割れ.JPG

03 4-8F 床上鉄骨塗膜浮き、発錆.JPG

04 4-8F.JPG

05 8F ドア上部腐食.JPG

06 床メッキ塗装浮き、一部発錆.JPG

07 電気配管ジョイントボックス底板欠損.JPG

08 地上通路外壁（腐食による穴あき）No1.JPG

09 地上通路外壁（腐食による穴あき）No2.JPG

10 M8F 防水上錆片堆積.JPG

11 南面外壁.JPG

12 南面外壁腐食による穴あき.JPG

13 北面外壁（腐食による穴あき）.JPG

14 北面外壁（目地確認）.JPG

15 北面外壁（溶接破断による剥離）No1.JPG

16 北面外壁（溶接破断による剥離）No2.JPG

01 ～ 07　記念塔 内部

08 ～ 16　記念塔 外部